



# 横浜陶芸友の会だより

## 「第35回作品展」の事業報告

今年度は、初めての会場「かなつくホール」でしたので、事前の説明が足りないなど行き届かない点が多々ありましたが、会員皆様のご協力により無事行うことが出来ました。ありがとうございました。

来年の会場は未定ですが、会員皆様方のおもしろい作品が、たくさん出展されることを期待しております。

### 「事業報告」

#### 会期

平成26年 1月14日(火)～19日(日)

#### 会場

かなつくホール三階ギャラリーA

#### 入場者数

849名

#### 出展者数

41名

#### 養護学校

聖坂・本郷・上菅田

#### 特別支援学校

日野中央高等・中村・北綱島・  
港南台ひの



作品展会場風景

第 1 5 8 号  
平成 2 6 年  
4 月 1 日 発行

**出展数**  
455 点

(特設コーナー「割り山椒」と養護・特別  
支援学校生徒作品を含む)  
**懇親会参加者数** 19 名 (会場は太陽)  
**当番人数**

今年度も搬入日に、「会場係の仕事説明」と「当番日」のプリントを配布しました。ご協力ありがとうございました。

**当番人数**  
14日 5人・15日 7人・16日 6人  
17日 8人・18日 14人・19日 10人

会員皆様の作品展です。来年度も、**出展された方は半日でもよろしいので是非お手伝い**をお願いします。

○ **出展料は(友の会)への賛助金**です。  
作品は並べば良いというものではありません。ゆとりを持って展示されるようにご協力をお願いいたします。

事業部

### 今後の作品展

鈴木 貴久

本年度の作品展は会場が変わり心配をしていましたが、大きな混乱も無く終了いたしました。立派な作品で会場を盛り上げてくださった皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。



(特設コーナー)

いとご理  
解いただ  
き、外れ  
ても怒ら  
ないでく  
ださいね。  
来年も元  
気でおい  
でできる  
事を祈つ  
て作品展  
お開きの  
ご挨拶と  
させていただきます。

新会場のテーブルの奥行き寸法は旧会場(75cm)に比べ20%少ない(60cm)の為、狭く感じられたと思いますが、他の会場の備品は40%も少ない(45cm)ので「かなつくホール」は立地条件を含め現時点では一番良い会場と事業部員満場一致で決めました。出品された皆様には満足して頂けましたでしょうか？

ただし「超人気」の会場なので難関の抽選に当たらなければ借りる事が出来ないという事が悩みの種です。

ちなみに春・秋の抽選倍率は20倍という狭き門だそうです。幸い1月は比較的倍率が低いのですが、それでも毎回当選するのは難しいとご理



懇親会の様子

**懇親会に参加しました。**

小松まさ子

お魚の美味しいお店で、頂いたお酒が自宅では消費する方がいないとかで、持ち込まれ、大いに楽しい時間をすごしました。なかなか年一回の作品展ぐらいでは顔を逢わせてもお話する機会もなく、会場当番も出てきても話をする相手もないのでは楽しくないですよ。懇親会と名前のごとく懇ろに親しくという会ですので、是非多くの会員の皆様に参加していただきたいと主催者は願っておられるのではないかと愚弄する筆者です。万難を排していつも参加させていただいております。皆様もいかがですか？

**役員会報告**

2月28日気温18度のポカポカ陽気の日會長始め各役員17名の出席で、話し合いました。

- 作品展の報告(事業部)
- 各部活動報告
- 次年度に向けて(作品展会場確保・各部活動予定・役員等人事も含む)

今年は何十年ぶりかの大雪に驚かされましたが、お花の季節になり心弾みますね。皆様いつそう作陶に熱が入られていることと思います。

**総会のお知らせ**

5月10日(土) 18時より  
杉田地区センター4階集会所A  
最寄り駅 京浜急行杉田  
JR新杉田

各行事において会員の方々のご要望等話し合える良い機会かと思われまます。多くの方が出席されることを楽しみにしております。

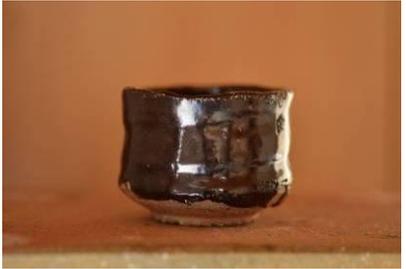
**次回役員会**

4月12日(土) 18時より  
杉田地区センター集会所A  
平成26年度総会にむけての準備

総務

この頁は、作品展会場に鈴木さんが出されていた作品目録ですが、これを見た会員数人の方から『コピーさせてください。』との申し出がありました。

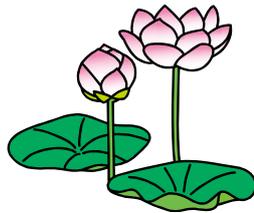
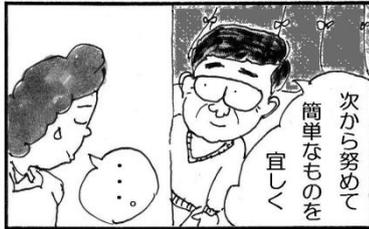
それで、ご本人にお願いして 今号広報に掲載させていただきました。 広報

出品者名	鈴木 貴久	
 <p data-bbox="300 801 555 837">作品名：志野筒茶碗</p>	<p>粘土：もぐさ原土 75%+志野土 25%</p> <p>釉薬：平津風化長石スタンプ 95%+焼カオリン 2% +ガイロ目粘土 3%+弁柄少々（特に厚掛け）</p> <p>穴窯焼成：5 昼夜</p> <p>もぐさ原土単味では「オカラ」のようでロクロ引きが難しいので志野土（五斗蒔）を混入した。</p> <p>自作の志野釉は溶け難く、高温（1280°～1300°）を 35 時間以上キープするのが望ましいかも。</p> <p>ちなみに志野は灯油窯で焼いても穴窯で焼いても全く遜色が無い。ただし市販の窯は被いの鉄板が薄いので何回か焼くと窯の金属部分が歪みますが。</p>	
 <p data-bbox="300 1272 555 1308">作品名：瀬戸黒茶碗</p>	<p>粘土：もぐさ原土 75%+志野土 25%</p> <p>釉薬：加茂川石パウダー単味（厚掛け）</p> <p>穴窯焼成：火入れから 55 時間目</p> <p>別名「引出し黒」。今回は 1160° の時に窯から引出し水を張ったバケツにいれて急冷した。より土は貝殻を使ったほうが、棚板から取り出し易い。「おき」をたっぷりためて焼くと一度取り損じても安心です。</p> <p>今回は 7 個も引出したので、バケツの中に予め具を入れておけば鍋が出来るくらいに沸騰しました。</p>	
 <p data-bbox="300 1742 555 1778">作品名：黄瀬戸茶碗</p>	<p>粘土：可児もぐさ（熊谷陶料）</p> <p>釉薬：ワラ灰 50%+土灰 50%（多少濃い目）</p> <p>タンパン：天然硫酸銅</p> <p>灯油窯焼成：28 時間</p> <p>900 度～還元焼成</p> <p>1200 度～1230 度まで 2,5 時間（還元焼成）</p> <p>1220 度キープ 2 時間（酸化焼成）</p> <p>1220 度～1020 度さまし焚き 4 時間（酸化焼成）</p> <p>焼成温度と酸化還元の調整が非常に難しい。</p> <p>特に後半は目が離せないので焼成中の飲酒はご法度。</p> <p>1200 度から焼成の終りまでは 8 時間～9 時間と長い。</p> <p>窯詰めのを少なめにした方が焼きムラが出ないように感じます。</p>	

# 陶陶さん

第 80 号

あかほし



黄泉の国への旅立ちにそつなく、素晴らしい個室（骨壺）まで準備されて、私も見習わなければいけないと思いました。濱さん静かにお眠りください。またお会いしましょう。



写真は平成 15 年 3 月 専修春の焼成会釉薬掛け時の写真です。

## 訃報

平成 26 年 1 月 21 日ご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

## 濱 素彦さんの思い出

高橋 光男

専修部員として長年活動されていた濱さんが逝去されました。専修教室では、参加者の質疑や釉釉の配慮など事細やかに対応されていました。いろいろと技術を持ち合わせて、作陶、施釉時に行き詰って考えているとヒントをよくいただきました。まだまだ教えていただきましたかったことが、いっぱいあります。特に急須作りです。濱さんの急須は逸品でした。



## お知らせ

- 作品展で最終日に隣で開催されていた写真展のメンバーの方に取っていただいた集合写真ができています。総会時お渡しします。
- 専修部本橋さんが作品展後に木の葉天目に挑戦され見せていただく機会がありました。とてもきれいだったので総会時に持ってきて皆に見せてほしいとお願いしました。
- 総会には、右記 2 点もあわせて是非お出かけください。 広報

猪瀬恵美子さんの手彫り作品（根気よく彫るのだそうです）作品展にて

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

### 横浜陶芸友の会だより 第 158 号

(平成 26 年 4 月 1 日発行)  
 発行人 横浜陶芸友の会  
 会長 高橋 光男  
 編集責任者 広報部長 吉良謙